

2011●図書館展示 2-3 月



期間●2011年1月31日～3月18日

場所●図書館ブラウジングルーム

企画●国立音楽大学附属図書館広報委員会

# マスカーニ 《友人フリッツ》

*L'amico Fritz*

3月5日に行われる音楽研究所 オペラ演奏研究部門公演に先立ち、  
(L'amico Fritz(友人フリッツ))に関する資料を展示します。

## CONTENTS

マスカーニについて	2
<友人フリッツ> あらすじ	3
展示資料	4

企画 国立音楽大学附属図書館広報委員会

## マスカーニについて

### ピエトロ・マスカーニ

Pietro Mascagni

イタリアの作曲家、指揮者

1863-1945

1863年12月7日、リヴァルノに生まれる。パン屋の子として生まれ、父は家業を継がせようとしていた。しかし、マスカーニの才能を見抜いたおじのアドバイスで、マスカーニは音楽のレッスンを受けるに至った。1882年にミラノの音楽院に入学したが、彼の作品の上演拒否などをめぐってディレクターと口論になり、1885年には退学してしまう。だが、この期間に5歳年上のブッチーニとルームシェアをし、親交を深めた。のちに2人は、それぞれが所属する出版社がライバル関係にあったため疎遠になったが、この時期の友情は厚いものであった。

数年間の放浪の後、1888年に結婚した。同年、彼は1幕オペラコンテストの存在を新聞で読み、<グリエルモ・ラトクリフ>の第4幕を提出しようかと考えていた。しかし、妻のリーナは夫に内緒で、<カヴァレリア・ルスティカーナ>を送った。この作品は1等選ばれ、1890年にローマのコンスタンツィ劇場で初演された。<カヴァレリア・ルスティカーナ>は熱狂的に受け入れられ、マスカーニは世界的名声を得た。ヴェリズモという言葉の明確な定義はないが、このオペラによってマスカーニはヴェリズモの流行を決定づけた。

しかし、2作目のオペラ<友人フリッツ>はヴェリズモに則ったものではなく、アルザスを舞台にした田園風の作品である。これは、<カヴァレリア・ルスティカーナ>の成功は台本が良かったからだとする意見に対する反骨精神の表れではないかという見方もある。<友人フリッツ>は1891年にコンスタンツィ劇場で初演され、30回を超えるカーテンコールを受けた。だが、次第に上演が減り、<カヴァレリア・ルスティカーナ>を超える成功には至らなかったとみられている。その後もいくつかのオペラを作ったが、<カヴァレリア・ルスティカーナ>以上の成功は得ていない。

マスカーニは良き父であり夫であったが、もう1人大切な女性がいた。彼が<イリス>のリハーサルでローマを訪れた時に会った、アンナという女性である。以来、2人は約30年間に500通以上の手紙をやりとりした。妻のリーナはアンナのアパートに出向き、マスカーニとアンナの関係を認める一方で、リーナとの結婚生活は壊さぬよう求めた。

マスカーニの晩年を考える上で欠かせないのが、ムッソリーニとの関係である。1929年、ファシズム体制に心を痛めて去ったトスカニーニの後を継ぎ、マスカーニはスカラ座の職に就いた。1935年にスカラ座で上演された<ネロ>は、ムッソリーニへの賛辞とも解釈できる内容が含まれていた。しかし、ムッソリーニ政権に公認された作曲家になったことは、マスカーニの評価を高めることにはつながらなかった。他の音楽家や政治体制に対する無分別な発言により、マスカーニは多くの敵を作ってしまった。

1945年8月2日、マスカーニはローマのホテルで死去した。遺体はローマに埋葬されたが、1951年に故郷リヴァルノに移された。

## <友人フリッツ> あらすじ

初演：1891.10.31 コンスタンツィ劇場（ローマ）

原作：エミール・エルクマン、アレクサンドル・シャトリアン

台本：P. スアルドン（本名：ニコラ・ダスプロ）

主な登場人物：フリッツ（T）、スーゼル（S）、ダヴィッド（Br）、ベッペ（Mr）、カテリーナ（S）、ハネゾー（Bs）、フェデリーコ（T）

### 第1幕

裕福な地主であるフリッツは女嫌いで、40歳まで独身を通している。部屋ではフリッツが司祭のダヴィッドに、結婚や愛に対して否定的な考えを語っている。今日はフリッツの誕生日で、友人たちが続々と集まってくる。やがて召使いのカテリーナが、食事の準備ができたと言う。ダヴィッドはフリッツに対し、君もいつかは結婚する気になるぞと告げる。一同が乾杯していると、小作人の娘・スーゼルが花束を持って祝いにやってくる。フリッツはお礼を言って、近々彼女を訪ねることを約束する。門の前で馬車が待っていると聞き、スーゼルは帰っていく。彼女の美しさに感心したダヴィッドが、スーゼルを結婚させると言い、フリッツも近々結婚するだろうと言うので、フリッツはそれを否定し、葡萄園を賭ける。

### 第2幕

フリッツが農場へやってきた。スーゼルはフリッツに花束をプレゼントし、農場にさくらんぼが熟していることを伝える。ここで2人は「さくらんぼの二重唱」として知られている歌をうたう。スーゼルは梯子にのぼり、摘み取ったさくらんぼをフリッツに投げ与える。そこへ司祭をはじめ友人たちが到着する。司祭のダヴィッドを残し、フリッツは他の友人に農場を案内する。ダヴィッドは井戸に水を汲みに行くスーゼルに水をもらい、旧約聖書の創世記の中のリベカの話をし、それに絡めてスーゼルの心確かめようとする。スーゼルがフリッツの花嫁になることを確信したダヴィッドは、戻ってきたフリッツに、スーゼルは近々結婚するだろうと言った。スーゼルに心惹かれるフリッツはこの言葉に怒り、友人たちとともに帰ってしまう。立ち去った彼の馬車を眺めて、スーゼルは泣き出す。ダヴィッドはスーゼルを慰め、それこそが愛の涙だと言う。

### 第3幕

舞台は第1幕と同じ部屋。フリッツはスーゼルに別れの言葉もなく帰ってきたことを悔やんでいる。友人のベッペはフリッツを慰めようとして歌をうたうが、フリッツは自分をひとりにしてくれと言ってベッペを帰らせてしまう。その後ダヴィッドが来て、スーゼルが金持ちの若者と結婚することになったと話すので、フリッツは怒る。フリッツに果物を持ってきたスーゼルは元気がない。フリッツはスーゼルに結婚の意志を問い詰め、ついに愛を打ち明ける。スーゼルも愛を打ち明け、2人は抱き合う。友人たちと現れたダヴィッドは賭けに勝ったことを宣言し、手に入れた葡萄園をスーゼルにプレゼントすると告げる。一同は楽しみに2人と喜びを共にして幕となる。

### \*参考文献

『ニューグローヴ世界音楽大事典 第17巻』講談社、1994（請求記号 X001/NG/17）

Roger Flury “Pietro Mascagni” Greenwood Press, 2001（請求記号 X-044/M395/F）

宮沢縦一〔ほか〕編『オペラ全集』芸術現代社、1979（請求記号 C35-119）

中河原理編『オペラ鑑賞辞典』東京堂出版、1990（請求記号 C63-992）

## 展示資料

< パネル >

ピエトロ・マスカーニ

Mascagni, Pietro, 1863-1945

1890 年頃。

出典: David Stivender "Mascagni ; an autobiography compiled, edited and translated from original sources" New York : Pro/Am Music Resources ; London : Kahn & Averill, c1988 (請求記号 C47-099)

同時代のイタリアの作曲家たち

左から、アルベルト・フランケッティ(1860-1942)、マスカーニ、ジャコモ・プッチーニ(1858-1924)。

出典: A cura di Mario Morini "Pietro Mascagni. Vol.1" Milano : Casa Musicale Sonzogno di Piero Ostali, [c1964] (請求記号 C4-504/(1))

エルクマン=シャトリアン

Erckmann-Chatrion

原作の小説 "L'ami Fritz" の作者エミール・エルクマン(1822-1899)とアレクサンドル・シャトリアン(1826-1890)。Erckmann-Chatrion は二人の共同筆名。

出典: Wikimedia Commons

<<http://upload.wikimedia.org/wikipedia/commons/0/08/Erckmann-Chatrion.jpg>>

(友人フリッツ)のヴォーカルスコア

出典: Wikimedia Commons

<[http://upload.wikimedia.org/wikipedia/commons/a/a7/Pietro\\_Mascagni\\_L%27amico\\_Fritz.jpg](http://upload.wikimedia.org/wikipedia/commons/a/a7/Pietro_Mascagni_L%27amico_Fritz.jpg)>

ローマ・コスタンツィ劇場

(友人フリッツ)は、1891年10月31日、ローマ・コスタンツィ劇場にて初演された。

出典: A cura di Mario Morini "Pietro Mascagni. Vol.1" Milano : Casa Musicale Sonzogno di Piero Ostali, [c1964] (請求記号 C4-504/(1))

第1幕、第3幕の舞台

出典: Edoardo Pompei "Pietro Mascagni ; nella vita e nell' arte" Roma : Tipografia Editrice Nazionale, 1912 (請求記号 C4-508)

第2幕の舞台

出典: Edoardo Pompei "Pietro Mascagni ; nella vita e nell' arte" Roma : Tipografia Editrice Nazionale, 1912 (請求記号 C4-508)

ミラノ・スカラ座での上演の様子

出典: Giorgio Bagnoli ; translated by Graham Fawcett "The La Scala encyclopedia of the opera" New York : Simon & Schuster, c1993 (請求記号 X-081/B)

< 図書 >

永竹由幸著『オペラ名曲百科. 上 イタリア・フランス・スペイン・ブラジル編』

音楽之友社, 1989 請求記号 C63-889 他

中河原理編『オペラ鑑賞辞典』

東京堂出版, 1990 請求記号 C63-992 他

音楽之友社編『歌劇. 下』

音楽之友社, 1984 (On books special. 名曲ガイド・シリーズ ; 14) 請求記号 C59-424 他

音楽之友社編『オペラ・オペレッタ名曲選. 増補版』  
音楽之友社, 1997 請求記号 C61-928

音楽之友社編『最新名曲解説全集. 第20巻』  
音楽之友社, 1980 請求記号 C34-982 他

宮沢縦一(ほか)企画編集『オペラ全集』  
芸術現代社, 1979 (音楽現代名曲解説シリーズ) 請求記号 C35-119 他

Alan Mallach "Pietro Mascagni and his operas"  
Boston : Northeastern University Press, c2002 請求記号 J95-973

David Stivender "Mascagni ; an autobiography compiled, edited and translated from original sources"  
New York : Pro/Am Music Resources ; London : Kahn & Averill, c1988 請求記号 C47-099  
マスカーニの自伝。

### < 楽譜 >

"L'amico Fritz ; an opera in three acts"  
Boca Raton, Fla : E.F. Kalmus, [199-?] (Kalmus orchestra library)  
請求記号 H42-213/(1), H42-214/(2), H42-215/(3)

"L'amico Fritz ; an opera in three acts with Italian text, vocal score"  
Miami, Fla : Kalmus, [200-] (Kalmus classic edition) 請求記号 F25-762

"L'amico Fritz ; commedie lirica in tre atti di E. Suardon"  
Milano : Sonzogno, c1891 請求記号 F0-572 他

"L'amico Fritz. ; aria for soprano"  
New York City : International Music, c1959 請求記号 F9-486 他  
第1幕より、スーゼルのアリア“Son pochi fiori”(私の摘んだわずかな花を)

"L'amico Fritz ; commedia lirica in 3 atti ; Son pochi fiori"  
Milano : Casa Musicale Sonzogno, c1892 請求記号 F24-317 他  
第1幕より、スーゼルのアリア“Son pochi fiori”(私の摘んだわずかな花を)

### < 録音資料 >

"Cavalleria rusticana ; L'amico Fritz"  
[Italy] : Fonit Cetra, p1988 ; [東京] : 発売元: ANFコーポレーション (Grandi scelte)  
請求記号 XD9896-9898  
1963年12月7日録音  
スーゼル: ミレルラ・フレニ(ソプラノ)  
フリッツ・コプス: ジャンニ・ライモンディ(テノール)

"L'amico Fritz"  
[Tokyo] : EMI Classics, 1993 (EMI Classics opera library) 請求記号 XD20746-20747  
1968年8, 9月録音  
スーゼル: ミレルラ・フレニ(ソプラノ)  
フリッツ・コプス: ルチアーノ・パヴァロッチ(テノール)

"L'amico Fritz"

[Italy] : Fonè, 1994 請求記号 XD39468-39469

1991年録音

スーゼル: サンドラ・パッチェッティ(ソプラノ)

フリッツ・コプス: ピエトロ・パッロ(テノール)

< 映像資料 >

"L'amico Fritz"

[Milano] : Kicco Classic, [200-?] 請求記号 VE2675

2002年11月収録

スーゼル: デイミトラ・テオドッシュウ(ソプラノ)

フリッツ・コプス: ホセ・プロス(テノール)

展示パンフレットは図書館ホームページからも入手できます。(バックナンバーも公開しています。)

<http://www.lib.kunitachi.ac.jp/tenji/tenji.htm>

2011/2/4 編集 国立音楽大学附属図書館広報委員会 : 二塚恵里・撰正弘